

3月のほけんだより

太陽の子保育園 2024年3月号

入学や進級を控え、子どもたちの期待が膨らんでいます。4月にはそれぞれのペースでよいスタートが切れるよう、怪我や病気に気を付けながら、残りの日々を楽しく過ごしていきたいとおもいます。



親子で感謝を伝えあおう

「よくできたね」と褒めるのではない。

「ありがとう、助かったよ」と感謝を伝えるのだ。

感謝される喜びを体験すれば、自ら進んで貢献をくり返すだろう。



オーストリアの心理学者、アルフレッド・アドラーの言葉です。

お子さんにとって、褒められるのはうれしい。でも、同じ目線に立って感謝を伝えてもらえる「ありがとう」は、もっとうれしい。そして、たくさん「ありがとう」と言われるほど、人にも優しくなれるのではないのでしょうか。

3月9日は「サンキューの日」。ぜひ、おうちでも実践してみてくださいね。



子どもの力を引き出す声かけとは？

0・1・2歳児への声かけ

子どもとの愛着関係を築き、社会性や言葉を育てていくためには、赤ちゃんのときからの声かけは大切です。子どもへの思いを言葉にしていくことがとても大切です。

子どもとの愛着関係を築き、社会性や言葉を育てていくためには、赤ちゃんのときからの声かけは大切です。子どもへの思いを言葉にしていくことがとても大切です。

行動の前に必ずひと言

「〇〇ちゃん、お着替えしようね」など、名前を呼んで、次の行動を知らせる。

子どもの気持ちを言葉に

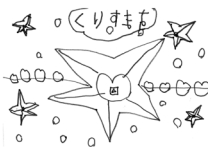
「〇〇でうれしいね」「〇〇で悲しいね」など、子どもの気持ちに共感して、それを言葉に。

ポジティブな声かけを

「ダメ」「危ない」と言われ続けると、自発的な行動ができなくなってしまうことも。「登っちゃダメ」ではなく、「降りてきて」と伝える。

子ども自身が考えられるように

「こうしなさい」ではなく、「どっちがいい?」「これは、どうかな?」と、子どもに考えさせるのも大事。



歯磨き大好き♪

ぱんだ組さんで、歯磨きを始めました。

給食後、グループに分かれて、歯の模型をみながら頑張っています。

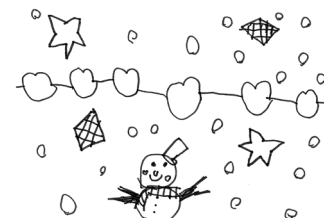
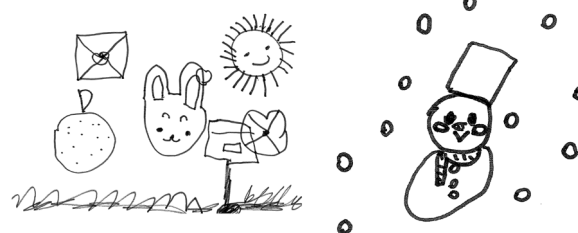
「さようならに持って～～よいしょ！」
で、さようならに歯ブラシを持った手首を曲げて、上の奥歯から磨きます。



歯の学校64号(日本歯科医師会)より

みんな歯磨きが大好きで、自分のグループの順番までワクワク待っている姿がかわいいんです。

こっちな、こっちなと口の中で歯ブラシをクルクルしている姿もかわいいです。



素敵なイラストは・・・

ほけんだよりの手描きのイラストは、毎月のお便りを作るとき、らいおん組さんのお友達4人くらいに声をかけ、事務所で描いてもらっています。みんなワイワイとても楽しい時間です。一緒に描くと、いつの間にか影響を受けるようで・・・

今回は雪だるまの登場が多い、(^.^)

子どもは言葉を「聞いて」覚える

小さな子どもは、周りの大人が話す言葉を聞いて真似をしながら、徐々に言葉を覚えていきます。また、音の刺激は、聴覚の発達自体にも影響が大きく、いろいろな音に触れられる環境づくりも大切です。



こうした音の経験をたくさんしていくためにも、子どもの難聴は早期発見が非常に重要です。

難聴は早期発見が鍵

難聴がある赤ちゃんは、約1,000人に1人とも言われます。意外と多いと感じられるのではないのでしょうか。また、新生児期以降に難聴が発生することもあります。呼びかけや音への反応が鈍いなど気になる様子を見つけたときは、迷わず耳鼻科を受診してください。

